



日一十月三年五和昭... 刊一十月二年五和昭... 廣告料一行四十円... 後所指定 試案送附... 発行所 平岡町大町三... 新いわき新聞社

大手筋が合流しない 石炭の値上げ問題

景氣の聲にお蔭の少ない炭鑛 尚ほ五十錢位は騰りそと

石城の財界を左右する炭鑛の増減は昨年較べて更に良好で需給の情勢に於て約一割の増加を唱ひられ冬場に移つた今十月から夏場に比較して塊炭一噸につき有煙一圓四、五十錢無煙二圓方を値上げされたのであるが常磐各坑の經營現狀に於ては尚ほ多少の値上げを欲してゐる其の希望の無理からぬ事實としての一例を上ぐれば仙台鐵山監督局管内に於ける既往十年間の平均賣價(塊粉を通じて)に見れば

大正四年	噸當七圓六二錢
昭和元年	七圓一〇錢
二年	七圓四四錢
三年	六圓六六錢
四年	六圓六二錢
五年	五圓七九錢
六年	五圓二四錢
七年	四圓八一錢
八年	五圓五〇錢
九年	五圓九五錢

去る昭和七年の下落のト、底から逐次高價を向ひてはゐるが之れと同時に諸用材料や勞銀が上つて居り且つ最底不況時の痛手が残る爲めに傍觀から唱ひられる炭鑛景氣なるもの、聲の割合に未だ遠まれば、いなない様である其所で半頭一步を進めたく思ふところだが何故に値上げ困難を告げてゐるか云へば三井、三菱の大手筋が容易に其れに合流して來ない其の理由は統制策

三坂の怪事件は 漸次迷宮入り?

發生後既に十日間を経て 捜査進展に連れ次第に難解

(鹿報)謎の區長怪死事件に就いては三坂村に捜査本部を置き柴田署長齋藤司法主任以下司法部長員で必死の捜査を續けた結果反區長派の巨魁と目され最有力の被疑者として同村 猪狩清(三)大谷明(三)佐藤嘉吉(三)佐藤長次郎(三)の四名を檢査本部に拘置したまゝ更に捜査の範圍を擴め區長怪死事件の謎を解くべく懸命の活動を續けてゐるがその後に至り捜査の進展に連れて事件は次第に複雑を極めは容易に事件の真相を摸探する事は困難に陥つたものゝ如くである、即ち去五日同村山林中

風水被害 約九萬圓

全郡下の 過般全縣下に襲來した大暴風雨による本郡下の被害に就いては關係各方面に於いて調査を急いでゐるが最も被害甚大な土木關係被害は平土木監督所に於て精細調査の結果河川道路その他合計三十三ヶ所此の被害額約八萬八千五百餘圓に達しその各れも應急復舊の必要あるものとして縣當局に對し復舊促進の申請中である

ア、ラ、モードは最新の流行型と云ふ意である、英語の流行と佛語の其れを組合せた日本語の言葉、ア、ラ、モードはフランス語でア、ラ、モードの反對古い珍奇な型と云ふ意

全村をおぼふ 流言飛語の黒雲

兇行現場の目撃者現はる? 果してデマ? 事實か?

(別項)捜査進展に伴ひ事件は容易ならざる難解を極めたもので當初捜査本部の反對區長派中に眞犯人ありとする捜査方針も或は根本的に誤謬があつたのではないかと疑はれるに至つた、目下同村内には流言蜚語亂れ飛んで居り區長派、反區長派ともあらゆるデマの應酬により互に相手派を傷つけんとする宣傳戰に全力を注いで居る形で事件發生後解明に至るまでの三日間は昔話にありそな孤に化された怪死の宣傳が行はれ持つてゐた菓子や提灯のローンクが喰はれてゐた...等のデマが誠しやかに傳へられ他殺と決定後は區長の生命保険を覗つて親近者某が殺害したとも傳へられたが噂の親近者某は當夜の不在證明(アライバイ)が立證されてゐるの問題なく、次いで反對派の連中が共謀して殺害したものと云はれ平署捜査本部の捜査方針と一致しただけに最有力と見られたものであるが突如昨十四日に至り 區長白石は〇〇〇〇の手によつて殺害されたもので殺

またぞろ現はれた 街の小ダニの群れ

平署近くダニ狩り決行

選挙前正、選挙違反それに三選された、ギャング狩りで徹坂村怪事件等に相次ぐ大事件が横行し魔手を伸ばせば付き此處二ヶ月殆んど不眠不休の活動を續けてゐる平署は胡蝶泥その他季節的各種犯罪被害の届出はあつても全く手を付ける暇のない程極度の繁忙を極めてゐるが此れがためかあらぬか最近平町のカンフー南町魔術街その他の盛場に五月蠅い例の不良連がまたぞろ姿をあらはして當業者を悩ませ

四倉秋蘭一萬一千貫 代金七萬二千三百圓

昨十四日までの取扱高

四倉蘭市場では来る二十日まで開場の筈であるが昨十四日までの秋蘭取扱高一萬一千四百八十九貫三百二十双この代金七萬二千二百七十二圓七十二錢に達した向昨十四日の取扱高は二百十五貫の出荷で相場は左記の如くであつた 最高七十圓 最低五十圓 平均六十三圓八

醬油味噌の 醸造講習

權威者木下氏を招き今日マルトモで

石城醬油味噌醸造組合主催の同醸造講習會は今日五日我が國斯業界の權威者元大藏省醸造所長木下氏を招き、嗟呼是れ瀧川清が友人、水戸の關戸覺藏が著せし東陸民権史の冒頭に見る一大機詞で彼田丸稻之衛門、藤田小四郎等が四十年前、一たび山頭に大呼せりや、勤王の風を深うしたのである。 明治十一年五月、本縣米會の雲遊く民間に充満しき近時往々、政客の此山に絶叫せる者亦出づ、自由の風を吹かすや、民権の聲を、彼等第一の識見家をして然擡揚せり、果して是れ何の因縁ぞ、借問する葉馬耳察頂、恰も天柱を折ぬべき猛風の吹起れるもの歟非歟

郷土史抄

予は本邦の政黨功罪史の一面を弗と今想起し同時に書架より食ふが如くに取出して讀んだのが次の文である (波)の山、千秋戦々の容を改めず、萬古蒼々の色を變ゆることなし、知らずや、馬耳察頂、恰も天柱を折ぬべき猛風の吹起れるもの歟非歟

共同線と連接
電話受付
平局で来る十五日
から二十一日まで

平局では本年度の電話共同線及び連接加入の申込みを来る十五日から二十一日迄の七日間受付ける筈であるが架設費は左記の如くで兩電話共に相手方及び本線加入者で使用される場合は通話出來ぬが使用度数の少ない向又は支店及び別宅等には便利で料金も共同線年額五十五圓、連接同三十四圓の低額である

結果、竟に聲望高き磐根が議長に、勤王、學識兩つながら具備して、衆員に超越せる濱が副議長に推舉されたのは既述の筈である。 濟等は其の時より夙も大御心に副へ奉る民権の自由思想を懷き、尋いで河野廣中、廣休の叔姪を首魁として、茨城縣人野口勝一等亦斯る氣勢に響動して、狹隘僻邑なる仙道田村より、東西の同志と呼應、駢起するや、俄然三泰の地は、奥羽に於ける之が先驅となつたのは事實であらう

産業

粉末の醬油 固形の醬油

味は液体のものと同じ
少しも變りがない

冷凍工業は近年各種の方面に試みられてゐるのであるが之れを醬油に應用して見事に成功した固形粉末醬油が出来た、發明者は埼玉縣大宮町の高鼻八九角田新平氏(四〇)で我が國特有の醬油を外國へ送る途上赤道直下を通ると腐敗したり又は液体の容量を増して樽が破裂したりするので粉末か固形に出来たならばと云ふのが研究の端緒で遂に其れを完成して特許を出願した、此の製法は液体である醬油を高壓釜に入れて外部から間接加熱法によつて若干加熱したものを特殊な蛇口から第二の真空容器に導く此の真空容器は冷却管を内部に備へて温度は零下七十度付近まで急降させこれによつて高壓釜から出た醬油の中の水分のみを蒸氣をば真空容器に入れて再加熱を加へ膨脹させて更に冷却させて水結する、この操作を繰り返すと醬油は其の重量の四分の一に輕減され容量は八十%減少する、此の時は丁度齒磨粉程度の醬油でこれを粉末乃至固形となすもので味は普通の蒸氣法により固形にした醬油の様に焦げ臭いことも水分を分離することもなくまた水分に溶解して沈澱することもない、特徴は水分を加へると直ぐ溶解しその風味は普通醬油と少しも異ならぬもので輸送の場合には容量が減ぜられてゐ

から頗る便利で到着後七十九の水を加へれば百の醬油が出来ることになる、此の式でやれば醬油の輸出は非常に樂になり更に燻のたれ肉鍋のわりのした等の粉末も出来ることになると、(完)

カクニ石鹼

嚴密なる注意を以つて原料を精選するが故
泡立に……芳香に……量に……總て理想的優良品です
|ケ…|〇錢 |ダース…|圓 •純マルセル石鹼|ケ…|〇錢•
ツルヤ 平四電一四〇

お醤油はヤマフル

醬油味増
たひら正宗
鯉節食料品
明治生命磐城代理店
山崎與三郎

大森醫院

内科、小兒科
醫學士 大森勇
平町南町 電話二五八番

日下家政婦會の御利用

● 派遣婦を御利用下さいませ
● 身元確かて品行方正ですから、
● 何を任せしてもご安心です
會員(同志の)御加入を御誘ひ致します
編入なき関係に裁縫や授致致します
平町字田町十八番地(西村屋横町)
日下家政婦會 會長 日下すい子
電話(呼)一八九番

高島屋

洋服は高島屋
注文並に既製品
秋物入荷
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六

山崎合名會社

電話 營業部二〇番
山崎與三郎

天然加里肥

農村の更生振興に
最も適應する作物!
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◎ 茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を興へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◎ 如何に施用しても土質を惡變する虞は絕對にありません

一俵 廿五錢

製造販賣 金成國雅
平町鎌田 電話六八八番
貨物自動車、の御用命に應じます

朝日

石鹼(セメント)製
石鹼(セメント)製
石鹼(セメント)製
石鹼(セメント)製
金屋商店

帝國海上火災保險株式會社

平代理店 關内正一
電話一六番
事務取扱者 阿部助次郎

木村病院

産科 婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 大岩俊雄
平町新川町九一
入院隨意 病室完備
電話一六四番

藤沼醫院

平町紺屋町
電話五〇七番
貸手車
平町大町若松醫院隣

開院 五十嵐

醫學博士 婦産科 醫學士 五十嵐雄二
入院需應 平町新川町一七
電話三七〇番

(磐城共濟病院)

福島縣平町電六四一
院長 石山謙
內科 醫學士 佐藤尚輔
小兒科 醫學士 黒澤廣
産婦人科 醫學士 大澤久藏
外科耳鼻咽喉科 醫學士
皮膚泌尿科 醫學士 山澤正
器病科花柳病科 醫學士 山澤正
X線科 醫學博士 石山謙
藥劑師 鈴木本孝
事務局長 鈴木本孝
電話(一七二番)